

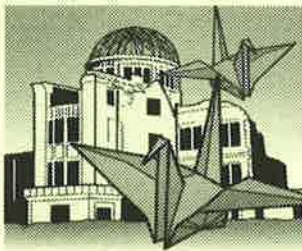
平和をねがう原爆展in春日部

～高校生が描いた原爆の絵～

2024年 8月18 (日) 19 (月)

ぽぽら月間イベント
20 (火) 21 (水) も展示

春日部市市民活動センター ぽぽら春日部4階



- ・高校生が描いた原爆の絵
- ・原爆写真、ポスター
- ・平和をねがうたごえ、手話ダンス
- ・アニメ上映
- ・原爆の記録
- ・絵本読み聞かせ
- ・被爆体験者の話、パンプキン爆弾の話



来場者の感想文集

【絵画や写真などの展示について】

原爆被害を描いた絵を見るのは初めてだった。話では聞いたり、テレビで見かけていたりしたが、実体験をもとに描いた絵を実際このように見ると、感じるものがたくさんあった。「骨だけで立っていた」という絵を見て驚いた。

広島や長崎で起きたことを風化させず、若い世代へとつないでいくことが大切だと思った。このように絵を見て感じたりすることができる機会を増やしていくべきだと感じた。とても良い機会をありがとうございました。(10代未満)

「本当におとうさん？」という作品が最も印象に残った。こっちを見て何かを訴えているような目に引き込まれた。(10代)

原爆被害の実相を描いた絵や写真資料を見て、とても胸が苦しくなりました。

私は、身近に戦争被害に遭った祖父母もいないので、教科書等で原爆ドームの写真を見るくらいで当時の状況は想像しづらかったのですが、今回のイベントで当時の様子が分かり、とても胸が痛みました。丸焦げの身体や骨だけの状態で見つかった時の様子から、原爆の恐ろしさを改めて感じられました。

貴重な経験になりました。ありがとうございました。(10代 春日部共栄高校)

絵ではあるけれど、悲惨さがすごく伝わってきた。原爆と聞くと、どうしても誰かが亡くなっていたり、原形をとどめない街の様子だったり思い浮かぶが、今回の作品を見ていく中で、戦争から帰ってきた父と、娘が抱き合っている絵が一番印象に残った。そういう場面はなかなか見られないので、今回見られて良かった。

あの時代で人々はどうすればよかったのか、どうすれば多くの人々が悲しまずに過ごせたのか、改めて考えることができた。今の戦争がない日々が私にとっては当たり前で、戦争は絶対に起きないと過信している自分が心のどこかにいるが、けっしてそうではなく、戦争があったという歴史を忘れずにいることが、この平和な日々を保っているのだということを忘れないようにしたい。

今回は、絵だけしか見ることができなかったが、また機会があれば、他の資料なども見てみたい。
(10代)

どれもリアルに感じてしまい、正直恐怖をまず感じてしまいました。最初は高校生が描いたことを知らずに見ていましたが、私と同じ高校生が描いた作品だと分かり、衝撃を受けました。

原爆については、小学校での授業やテレビなどでしか知ることがなく、知りたいと思っても、怖くてなかなか調べるまでできませんでした。今回たまたまこういったものを見ることになり、一番強く思ったのは、平和への願いでした。今当たり前のように過ごしている平穏な日々がとても貴重なことで、もう二度と原爆の被害を受けるようなことが起きてはならないと思うし、どの国でも戦争などが起こることがないようであってほしいと思いました。

原爆のことは、これから先も忘れてはいけないことだから、私たちのような学生が、こういった出来事に関心を持ち、これから引き継いでいくべきだと思います。過去の悲しい出来事にも目を向けることが大切だと思うので、貴重な経験になりました。ありがとうございました。(10代)

とてもリアルで印象深かった。写真にも匹敵し得る立派な資料だと感じた。(10代)

高校生のときに、知覧の特攻平和会館で見たものを思い出しました。被害の凄惨さが、重くのしかかるような気持になる展示でした。高校生が、これだけの内容を込めた作品を制作できることに驚くと同時に、純粋にすごいとも感じました。

ただ話で聞いたり、写真などの資料を見たりから当時のことを知るだけの若者と、このような作品を制作した高校生たちの中には、大きな差があると思います。原爆被害の実相を真に理解できた者として、今後もたくさんのことを学んでほしいです。(20代)

当時のことを知らない高校生たちが、これだけリアルに描いていることにとってもびっくりしました。アニメも子どもたちに分かりやすく伝えられており、すばらしかったです。(30代)

とても良い展示を、もっと多くの若い世代に見ていただきたいと思います。高校生が描いた絵を通して、ぜひ春日部市の高校と一緒に何か取り組めることができればと思います。(全校生徒対象の行事でもいいし、歴史の授業や研究会、美術部など)あるいは、中学校で映画の上映などもご検討いただければと思います。若い世代への継承はとても重要なことです。(40代)

高校生が描いた絵は、自分が実際に体験したことではないのに、とてもリアリティーがあると感じました。きっと被爆者の方からの聞き取りを丁寧に真剣にされたのだらうと思います。世代が変わり、実体験を有する方が少なくなっていく中、こうした語り継ぎの試みは大変意義のあることだと思います。

写真資料の方は、いずれもハッとさせられるひじょうに辛く悲しい情景です。中でも、「焼き場に立つ少年」の写真は、何度見ても胸が苦しくなります。(50代)

原爆についての詳しい資料ももちろん勉強になりますが、高校生が描いた絵には心を打たれました。戦後生まれが大半になりつつある今、戦争の悲惨さなど、絶対にあってはならないこととして伝えていかなくてはいけない中、こうした作品を描いた若い方々が、体験を伝えていく力となってくれたことに希望が見えました。ただ体験を語る方も描く方も、辛い時間だったと思います。

戦争のことを伝えることに力を貸していただき、ありがとうございます。けっして戦争はしないように、今生きている毎日を頑張らなければと思います。(50代)

高校生が、被爆者の体験をもとに心に感じるままに「絵」という形に残したのはすばらしい！けれど、描くことがどれほど苦しく辛い作業だったであろうと思うと、胸がつまります。

地球上のどこかでは、今でも戦争が続いています。戦争被爆国の日本だけは、けっして間違いを繰り返してはいけません。未来の子どもたちのためにも、一人でも多くの人々の記憶に残さなければならぬと思います。(60代)

高校生が描いた絵には、物語性も感じられた。聞き取り調査をしながら描いた辛さや悲しみも感じられた。(60代)

高校生が描いた絵、すごいです。ジーンとききました。戦争は絶対にダメ！(60代)

私自身戦後生まれ。体験者の話を聞くことだけでも尊いことだと思うが、それを反芻し、作品にまですることが、どんなに苦しいか想像に難くない。

残念なことこの地上から戦火はまだ消えていない。せめてせめて、原爆の被害は、長崎までにし

たい。いや、しなければならない。「では、あなたには何ができるのか？」高校生から問われた気がした。(60代)

原爆被害の絵は、伝えた方も、それを絵に表現した高校生の方も、辛い仕事だったと思います。その辛さを越えて、こうして展示されるまでにしていただき感謝です。怖い、痛い、熱い、辛い、悲しい……色々な風景や感情が伝わってきました。戦争体験者が減っていく中、こうした戦争の実相を、若い世代が語り部としての役割を担っていくことは素晴らしいことだと思います。指導された先生も素晴らしい。

きな臭いニュースが日々流れるこの頃、世界中のあちこちで戦火が立ち上っている現在だからこそ、このような企画をしていただきありがとうございました。(60代)

「うめつくされゆく川」、「少年の思い」、「非常トラック」、「本当におとうさん?」、「生きぬいて」、「焼き場に立つ少年」、「お母さん待って!」……。見ていくうちに胸が詰まる思いとなりました。
(70代)

被爆後、逃げようとする人たちは皮膚が垂れ下がり「幽霊」のようだったということは、本などで読んで知っていました。たくさんの人たちが川に飛び込んで亡くなったことや無数の遺体が焼かれたことも知っていました。けれども、高校生が描いた絵を見て、その苦しみや悲しみ、母が子を、少年少女が友だちを、家族を思うその気持ちがまっすぐに届いてきました。あまりにも悲惨です。

核兵器をなくそうという動きに逆行する日本の政府の人たちや世界の首脳に、ぜひ見せたいと思いました。すばらしい企画をありがとうございました。(70代以上)

昨年も武里の原爆展で高校生が描いた絵を見ました。被爆体験者の方から聞き取り、その思いを絵に表現することは、とても苦しく大変なことだったと思います。

あらためて戦争の悲惨さ、愚かさを強く感じます。戦争は絶対にやってはダメ!また、原爆を使用するなんて絶対に許さない。(70代以上)

絵画の証言者のだいたいの年代が表示してあればよいと感じた。(70代以上)

高校生が描いた絵には、本当に息が詰まりました。戦争のもたらす悲しさが伝わってきます。

最近、何やらきな臭い話が聞こえてきます。今一度足元を見つめ、これからの日本と子どもたちのために、老骨に鞭打って踏ん張らねばとの思いです。(70代以上)

被爆された方々の言葉を絵に表現する……。大変な作業だったと思います。被爆者にとっては、辛い体験を思い出すことになりすし、それを受け止めて絵に表現する高校生にとっても、辛く重い体験だったと思います。

絵は、当時の状況をとてもよく表現できていると思います。たくさんの方に見てほしいと思いました。平和を祈ります。(70代以上)

原爆の恐ろしさがリアルに表現されていて、まさに地獄そのものだと感じました。

悲惨な原爆の被害、そして、今も戦争が行われている現状を考えると悲しくなります。なぜ人同士が殺し合わなければならないのか。戦争は人を変えてしまうとよく聞きますが、まずは争いをしない人間にならなければならないと思います。世界の人と友だちになりましょう。(70代以上)

描いた高校生が、被爆の実相をよく理解してくれているようで、描写のリアルさがすごいです。写真資料も、何度見てもその残虐さに目を覆ってしまいます。(70代以上)

「焼き場に立つ少年」の、2歳の弟をおぶっている少年の姿が、何度見ても胸を打たれます。(70代以上)

核軍縮のために、「部分的核実験禁止条約」、「核拡散防止条約」、「包括的核実験禁止条約」と3つも条約が結ばれていたことを知って驚きました。(10代)

負傷者の選別(男は治ったら原隊へ戻す。女・子ども・年寄りはお返し)が、このような状態でも行われていたとは、軍人の業の深さを感じました。(70代以上)

「原爆は戦争を終わらせるためには必要なかった」という記述はショックだった。一部の戦争指導者がメンツにこだわって始めた戦争に、一般国民も協力し、その盛り上がりで戦争を拡大していったように思う。我々一般市民も、しっかり平和を考えなければならないと改めて感じた。(70代以上)

【アニメ上映やスライドショーについて】

先生の作成したスライドとナレーションは特にすばらしかった。来年は、ぜひ市役所のロビー等で開催していただきたいと思いました。(60代)

「はだしのゲン」は何回見ても辛いです。それにしても、暗い画面の中から聞こえる声優の音がすばらしい。声で悲しい、苦しい、うれしい、これだけ表現できるのね。

今を生きている私たちは、心に深く平和を念じ、平和であればこそと、日々少しの心の安定を図りたいですね。(70代以上)

【展示会の総合的な感想】

皆さんお忙しい中を、初めての市と教育委員会の後援をいただいたの原爆展の開催、素晴らしいです!

手話ダンスも色を添え、平和を願ううたごえもよかったです。「はだしのゲン」も、被爆直後の現地の様子や終戦当時の状況が伝わる内容と、原爆の恐ろしさ理解でき良かったです。もっと大勢の人に見てほしいと思いました。

実行委員会の皆さん、本当にご苦労様でした。(70代以上)

これほどの幅広い団体の人々が結集して、大きな平和を願う意思が示されたと思います。平和フェスティバルの実行委員会も、発言等には多少の制約がありますが、ほぼ市民の立場での内容が認められています。市内の平和を願う勢力が連帯して、こうした催しを進めていければよいと思いました。(70代以上)

今回模擬原子爆弾パンプキンの件を調べたレポートを展示し、発言できたことは良かったと思います。原爆展は、外部から写真パネルや資料を借りて展示するのがほとんどだと思いますが、自分

で調べることの大切さを感じます。

市内在住の原爆被害体験者の話を聞いたのも良かったです。市内には、他にも体験者の方がまだまだいるかもしれませんね。

高校生が描いた絵も、地元や近隣の高校生の絵であれば、参加する高校生も増えるのではないかと思います。(年金者組合 坂口さん)

【平和や戦争・核兵器について】

戦争はやってはいけないことだと思いました。(10代未満)

小学1年生の娘にも良き学びとなりました。以下のような会話がありました。

「日本にはもう原子爆弾は落とされたい?」「どうして原子爆弾とか、こんな怖いことを知らなければいけないの?」「原子爆弾でない爆弾でも皮膚が溶けてしまうの?」「どうしてアメリカは原子爆弾をつくったの?」「どうしてアメリカは、日本に原爆を落としたの?」「日本のリーダーは、どうしてルール(憲法)を変えようとしているの?」「私のお墓はどこになるの?ママと隣のお墓がいい。」

「私はママと同じ時まで生きていたい。ママが死ぬ時は私も死にたい。」

「ゲンの隣にいた女の子は、どうやって死んだとわかったの?ゲンはどうして助かったの?ゲンは学校に行っていたの?」「ゲンの映画は怖かったけど、初めの映画では涙が出た。」

グロテスクな印象しか受けなかった。絵を見ることで、また戦争を引き起こさないようにするという意図であるなら、共感できない。戦争をするかどうかは政府が決めることなので、私たちは口出しできないし、抵抗しても空しい未来しか見えない。

悲しい気持ちを持ちましたが、原爆後の明るい未来の絵も必要だと思った。「悲しい」だけで終わらず、次につながる未来も示してほしい。(10代)

今回の展示を見て、改めて原爆による被害は、人類史上におけるもっとも破壊的な出来事の一つだと感じた。広島と長崎に投下された原爆は、数十万の人々の命を奪い、多くの人々に深い傷を与えたものである。その破壊力や残虐性について考えると、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを痛感した。

原爆投下の背景には、第二次大戦中のアメリカと日本の戦争の状況がある。アメリカは、戦争を早期に終わらせるために原爆を使用したと言われているが、そのような選択は、本当に正しかったのかと疑問に思う。生命の尊さを考えると、他の方法もあったのではないかと思う。

最後に、この出来事を忘れてはいけないし、自分も絶対に忘れないようにする。

(10代 越谷栄進中)

展示しか見ることができなかったが、原爆について考えさせられました。自分は今受験生で、当時のことを知ることの多くが、日本史の教科書からです。「原爆投下があった」「広島と長崎に落とされた」という記述を読んでも、正直「そんなことがあったのか」としか思えなかったです。

去年、沖縄への修学旅行で初めて「戦争」というものが自分の目に飛び込んできました。さらに、今回の展示物は、絵がカラーで鮮明で、胸が締め付けられて全ては見られませんでした。でも、見た絵から、一国の承認欲求が多くの人々を巻き込んで、悲惨な出来事を生んでしまったのだと思いました。

今も世界では戦争をしている国があるけれど、展示物を見て、武力によって平和を掴むことはできないし、それが本当の平和なのかと考えさせられました。(10代 杉戸高校)

戦争について考えることが、日頃の生活の中でとても少ないことを感じています。いつも当たり前にある日常のありがたさを考えさせられると同時に、今もなお戦争で苦しんでいる人々のことを思います。相手のことを考えて、愛を持って接することができれば、戦争は起きないと思うのに、なぜ同じ悲劇を繰り返してしまうのか。人の傲慢さを感じます。(20代)

毎年この月を迎えると話題は高まりますが、残念に思うことは、このような悲惨で残酷な出来事を、単に「過去のこと」としてとらえている方々が増えていることです。唯一の戦争被爆国であるのに、核の禁止については一歩引いている現実や戦争の発端を考えると、世界中の人たちが戦禍の中を通過してきたのに、今も生命が脅かされています。「はだしのゲン」もよく読んでいましたが、広島市の副教材から削除されてしまいました。

被爆体験者から話を聞きながら絵にして、さらに修正を繰り返し完成させたことは、本当にありがたく、大切な記憶を記録として残してくれています。よく描かれているので、十分にその思いをつかみとらせていただきました。「ありがとう」です。そこには勝者も敗者もなく、残るのは人の地獄絵図です。

良きリーダーを育て、平和な世界が当たり前の中にしていききたいと再確認しました。これからも続けてください。お願いします。(60代)

8月は、広島、長崎の原爆の日を迎える月です。直接現地の資料館へはなかなか行けません。だから、春日部でこのような展示会を行うことは良いことだと思います。特に高校生の絵からは、悲惨な実相がよく伝わってきました。(70代以上)

私は3歳の頃終戦を迎えました。叔父は軍医で、ソ連の地で水を運ぶ途中、20代で車ごと爆死したと聞いています。食料の配給を、札を持って列に並び、もらえるのはクジラの塩漬けや半分腐ったような作物。母は、嫁いできた時の多くの着物を、農家でお米と交換しておりました。食べ物も衣服もまったくない時代でした。展示されている絵や写真を、直視することがいまだにできません。

今も世界のどこかで戦争がやむことなく続いています。なんとか話し合いで解決できないものか。ただただ平和を祈ります。(70代以上)

改めて、このような悲劇を二度と起こしてはならないと思った。そのためにも、大勢の人にぜひ見てもらいたいと思う。核兵器のない平和な世の中になりますように。(70代以上)

終戦から79年が過ぎた。広島と長崎への原爆投下は、とても非人道的な行為であった。アメリカは、広島、長崎以外にも日本の各都市で原爆投下を計画していたようである。

私たちは、被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さを考えていかなければならないと思っている。
(70代以上)

以前高校生のアンケートを見る機会がありましたが、このような催しや、アニメ、学校教材が、平和について知る機会だったことに少々驚きました。日常のニュースではなかったということに。こうした催しや、平和について訴えていくことがとても大事だなとつくづく感じました。

今回の催しに少しでも多くの人に参加されるとよいですね。平和であることに不安を感じる今日

この頃、大切にしていきたい催しだと思います。孫は、直視できないからと足を向けませんでした
が、それも一つの学習かなと。(70代以上)

毎年原爆展を開催してくださり、心から感謝しております。内容が盛りだくさんで、2日間ずつ
と参加したいくらいです。

高校生が描いた絵は、やはり話で聞くだけでなく絵を通してその時の惨状を知ると、さらに原爆
の恐ろしさや被爆地の人々の悲しみや苦しみが迫ってきます。被爆された方のお話をじかに聞くこ
ともでき、心に残りました。

毎年8月15日前後に、NHKを中心に戦争についての番組が放映されますが、まだまだ知らない
ことがいっぱいあることを実感しました。(70代以上)

今日は思いがけず、とてもありがたい色々なことを知りました。心から感動しました。本当にあり
がとうございました。今日からやさしい人になろう、そして、もっと素晴らしい人生をと、反省した
一日でした。(70代以上)

被爆された田中様のお話、同年代としてとても身に沁みました。アニメは、多くの人に見てもらい
たい。私も生きている限り話を伝えていきます。(70代以上)

若年代の参加が必要です。ネット時代でもありますし、この催しをYouTubeで全世界に発信し
た方がいいと思います。そして、その反応も公開し、より効果的に平和への関心が広がることを願っ
ています。(70代以上)

人間が開発した最高の殺傷力と破壊力を持つ兵器。その威力は、広島、長崎で証明された。国際社
会においては、これを二度と使用することはあってはならないとの世論に到達している。

日本は唯一の戦争被爆国として、核兵器の開発中止や使用させない運動の先頭に立つ、国際社会
においての義務を持つ。核兵器が廃絶させるまで運動に参加していきたい。(70代以上)